

Economic Monitor

所 長 三輪裕範 03-3497-3675 miwa-y@itochu.co.jp
主任研究員 丸山義正 03-3497-6284 maruyama-yo@itochu.co.jp

米国のインフレ動向は安定

エネルギーによる押し下げが縮小したため、ヘッドライン CPI の下落が止まった。一方、コア CPI や種々のトレンド指標、期待インフレ率は安定。インフレ動向は金融緩和を促さないが、障害でもない。

エネルギーによる押し下げが縮小

米国の6月消費者物価指数(ヘッドライン CPI)は前月比0.04%(5月▲0.28%)と、市場予想通りほぼ横ばいだった。原油価格下落を受けてガソリン価格を中心にエネルギー価格が3ヶ月連続で低下したものの、低下幅は5月▲4.3%が6月は▲1.4%へ鈍化したため、コアCPI(除く食料・エネルギー)の安定的な上昇(5月0.2%、6月0.2%)によって相殺された。5月に▲0.9%と急低下した財価格も、6月の低下幅は▲0.2%へ縮小している。前年比で見ると、ヘッドラインCPIは前年比1.7%と5月から変わらず、コアCPIは2.2%(5月2.3%)へ小幅低下した。

サービス価格は上昇基調

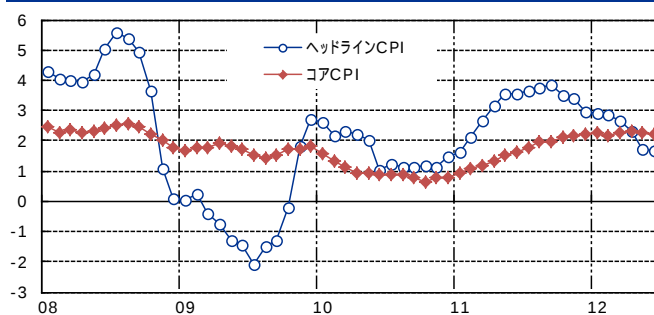
コアCPIの内訳を前月比で見ると、多くの分類で緩やかな上昇となっているが、4月及び5月に比べて伸びが高まっているのは、衣服(5月0.4%、6月0.5%)、医療(0.4%、0.6%)、娯楽(0.1%、0.3%)などである。衣服について製造を担う新興国の賃金上昇に伴う上昇トレンドが継続したほか、サービス価格の上昇が目立つ。

なお、全米平均ガソリン価格は、7月上旬までのデータによると、6月平均3.54ドル/ガロンが、7月は3.4ドル程度へ低下している。CPIにそのまま当てはめると、CPIベースのガソリン価格は原系列が前月比▲3.6%(6月▲6.1%)と引き続き低下するものの、季調値では▲0.6%(6月▲2.0%)とほぼ横ばいにとどまり、下落が一服する。

トレンド指標は安定

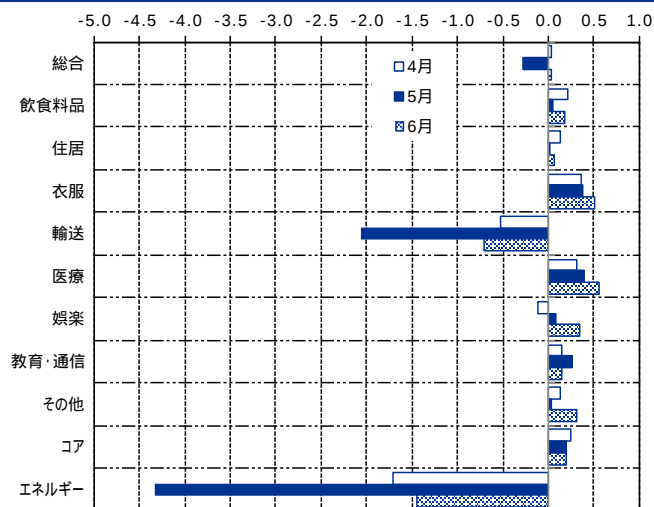
トレンド指標を見ると、刈り込み平均CPIが12ヶ月前比2.2%(5月2.1%)、中央値CPIは2.3%(5月2.3%)、粘着価格CPIが2.3%(2.3%)とFedがマンドेटに

CPIのヘッドラインとコア(前年比、%)



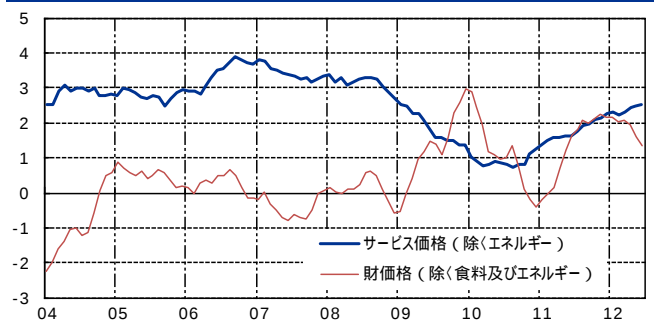
(出所)CEIC

直近3ヶ月のCPI推移(前月比、%)



(出所)CEIC Data

エネルギー以外のインフレ動向(前年比、%)



(出所)CEIC Data

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、伊藤忠経済研究所が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠商事ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。

適うと考える 2%を若干上回る水準で概ね安定して推移している。

最後に、インフレ期待を見ると、ミシガン大調査の 5 年期待インフレ率は 2.8%程度で横ばい、インフレ連動債から算出される期待インフレ率（10 年）は 2.1%で推移している。共に安定と言える。

コア CPI、トレンド CPI、インフレ期待の動向は、足元のインフレ動向が極めて安定的に推移していること

を示唆するものである。加えて、全体のトレンドに影響するサービス価格の上昇が続いていることも踏まえれば、デスインフレの懸念もないと判断される。もちろん、潜在成長を下回る低成長が続き、失業率が高止まりする下では、国内発のインフレの懸念も小さい。現在のインフレ動向は、中央銀行にとって追加金融緩和を促すものではないが、追加金融緩和の障害にもならないと言える。

CPIのトレンド指標推移（前月比年率％）

